



2022年2月10日

各 位

会社名 日本 KFC ホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 判治 孝之
(コード番号 9873 東証第2部)
問合せ先 取締役専務執行役員 金原 俊一郎
TEL.(045)-307-0605

業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、直近の業績動向等を踏まえ、2022年2月10日開催の取締役会において、下記のとおり、2022年3月期(2021年4月1日～2022年3月31日)の業績予想及び配当予想を修正することを決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 2022年3月期通期連結業績予想数値の修正(2021年4月1日～2022年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	95,688	5,793	5,012	2,831	126円63銭
今回修正予想(B)	97,000	5,800	6,300	4,300	192円41銭
増減額(B-A)	1,312	7	1,288	1,469	
増減率(%)	1.4	0.1	25.7	51.9	
(ご参考) 前期実績(2021年3月期)	89,652	6,354	5,498	2,805	125円50銭

(注) 今回修正予想の1株当たり当期純利益は、期中平均株式数22,348,667株に基づいて算出しております。

2. 業績予想の修正理由

当社グループにおいては、当連結会計年度を初年度とする中期経営計画『第二の創業 これから50年の持続的成長に向けて』を策定いたしました。

主力のケンタッキーフライドチキン(KFC)においては、新型コロナウイルス感染症対策を最優先としつつも、積極的な新規出店、ブランド力の維持・向上を目的とした既存店舗の改装促進、デリバリー導入店舗の拡大及びデジタルメディア機能の拡充によるお客様の利便性向上、魅力的な商品開発など諸施策に取り組んでおります。これらの諸施策を着実に取り組んだ結果、当第3四半期(2021年4月～2021年12月)の月次業績につきましては、既存店売上高が前年同期比103.4%、既存店客数が同106.4%と年間を通じて好調に推移しております。

一方、当社の持分法適用関連会社においては、新型コロナウイルス感染症の拡大による営業時間の短縮要請や酒類の販売制限等に起因して、売上高の減少等の影響が生じているものの、業績回復の兆候も見え始めております。

これらの結果、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益が前回公表の業績予想を上回る見込みとなったため、2022年3月期の通期連結業績予想について、上記のとおり修正することといたしました。

3. 2022年3月期配当予想の修正

	年 間 配 当 金		
	第 2 四半期	期 末	合 計
前回発表予想	—	25 円 00 銭	50 円 00 銭
今回修正予想	—	35 円 00 銭 (普通配当 25 円 00 銭) (特別配当 10 円 00 銭)	60 円 00 銭 (普通配当 50 円 00 銭) (特別配当 10 円 00 銭)
当期実績	25 円 00 銭	—	—
(ご参考) 前期実績 (2021 年 3 月期)	25 円 00 銭	35 円 00 銭 (普通配当 25 円 00 銭) (記念配当 10 円 00 銭)	60 円 00 銭 (普通配当 50 円 00 銭) (記念配当 10 円 00 銭)

4. 配当予想の修正理由

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題の一つとして位置付け、安定的な配当を継続的に実施していくことを基本方針としております。

上記 2022 年 3 月期通期連結業績予想の修正に記載のとおり、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益の期初予想比増益の見通しから、期末配当予想を 1 株当たり 25 円から特別配当 10 円を増配し、1 株当たり 35 円（普通配当 25 円、特別配当 10 円）に増額修正することといたしました。

この結果、年間配当金は、既の実施済みの第 2 四半期配当金と合わせて 1 株当たり 60 円となる見込みです。

(注) 上記に記載した予想数値につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上